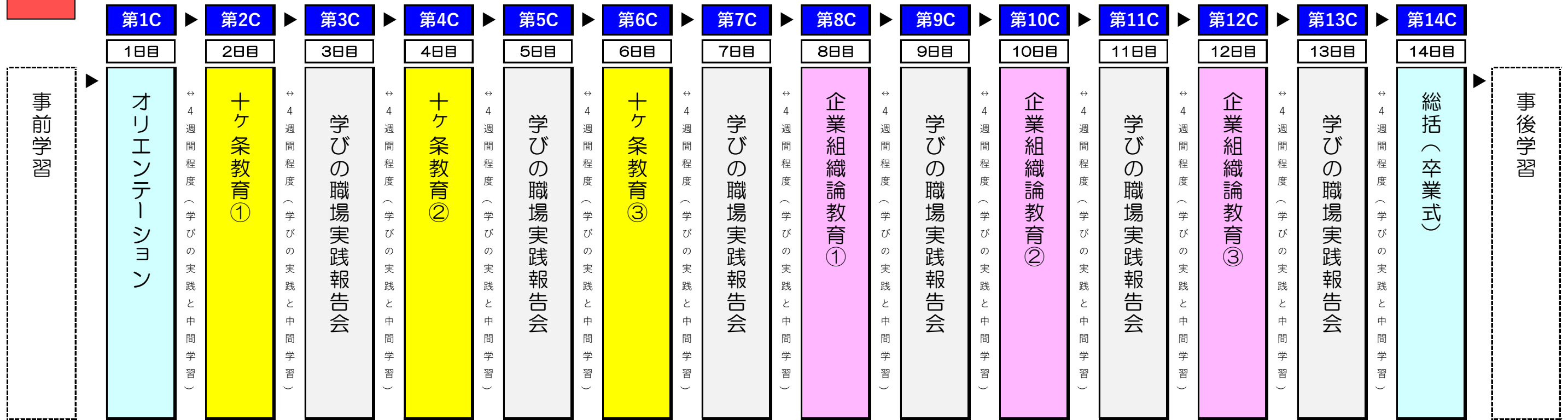


A

組織活性化研修「基礎コース」14カリキュラム版（地力醸成・定着型）



※1. 十ヶ条教育（第2～7C）では、あらゆる業界、業種、担当業務、階層に対応可能な教材「職業能力十ヶ条」を使用します。

※2. 企業組織論教育（第8～13C）の内容として以下の骨子があります。

- ①企業組織の根本価値観（機能型組織の6つの価値観／共同体型組織との違い／社員に課せられた4つの役割と責任及び機能構図）
- ②目標達成管理論（目的と目標の再定義と相互効用／目標管理と目標達成管理の違い／目標と方針の連鎖／目標の4要素と達成のための3本柱／計画の3要素）
- ③問題解決論（問題とはなにか／問題解決を構図で理解する／問題解決能力「ある・ない」の特徴／問題の3類型と解決のための柱／問題解決3つの肝／職場の問題解決のプロセス／問題解決型人材誕生のシナリオ／仕事を通じた自己実現のススメ）
- ④職場活性論（勘違いしやすい職場活性／職場活性のエビデンス／切り口毎に語られるべき職場活性／職場活性と単純な効率化の違い／職場活性コミュニケーション5則／職場活性の公式／チームワーク論）
- ⑤自己成長及び部下・配下指導育成論（成長＝問題解決／一止自己否定／世界を広げる重要性／トライ＆エラーの実際／許される失敗と許されない失敗／唱えるべき呪文／仕事の4H／指導の説得力）
- ⑥コミュニケーション論（コミュニケーションの位置づけ／もっとも重要な要素／他者認知の必然と仕組み／2つのコミュニケーション能力と前提となる理解／コミュニケーションの3本柱）
- ⑦リーダーシップ論（リーダーシップの位置づけ／リーダーシップの今昔／誰が発揮すべきものか／強さの危惧／演出と演技の要素／ギャップ萌えの理論／リーダーシップマトリクス／スタイル変化の必然）

※3. 各カリキュラムでは講義と併行して各種審査を実施します。審査項目は以下となります。尚、ご相談により審査項目の増減に対応いたします。

- ①十ヶ条 ②企業組織論 ③礼儀礼節 ④元気・勇気・チャレンジ ⑤自我超越 ⑥実践職場活性 ⑦研修レポート ⑧率先垂範 ⑨役割意識 ⑩変革（講師評価） ⑪変革（職場評価） ⑫特別賞 ⑬社長（幹部）賞

※4. 十ヶ条教育で「あるべき職業人としてのあり方」を、企業組織論教育で「あるべき企業組織人としてのあり方」を、各種審査チャレンジを通じて「あるべきよりよく生きる人間としてのあり方」を練り上げます。

※5. 学びのメイン骨子毎に「学びの職場実践報告会」を実施します。研修生一人ずつの発表に対して、研修生全員で講評し、講師は関連した指導を行います。研修生は毎報告会に向けて、真摯に前回までの学びを職場で実践、その内容を毎回カリキュラムまでに実践レポートにまとめて頂きます。

※6. 上記※5. の内容に加えて、毎カリキュラムにつき復習或いは予習の観点から、+αの課題が出されます。上記※5. と併せて、これらが「中間学習」に相当します。

※7. 最終カリキュラムにおいて、※3. の審査項目全てに「合格」した研修生を「卒業認定」し、証書を授与します。証書は弊社で用意します。社長又は研修導入決済幹部から手渡して頂くべく、プレゼンター役の社長又は幹部の日程調整をお願いします。尚、プレゼンターには卒業式で講話を頂戴します。研修趣旨に即した講話をお願いします。この講話如何で研修効果が水泡に帰す場合もあります。ご注意ください。

※8. 最終カリキュラムの卒業式にて、優秀研修生表彰を実施します。

